



五木東小 第33号

学校便り
文責
生田 文明

五木源ふれあい フェスティバル

二十二日(日)は、園児・児童・保護者・地域の方々約一五〇名の参加のもと、第十五回五木源ふれあいフェスティバルを開催しました。

ステージ発表の部では、オープニングとして「さんぽ」の曲を披露しました。一・二年生が振りを入れた合唱で、三・六年生がリコーダーや鍵盤ハーモニカ等で合奏を行いました。上級生の伴奏に支えられ、下級生は楽しく歌うことができ、会場が明るいきずくになりました。

また、一・二年生の発表「まつりだ！わっしょい」では、祭り囃子に合わせて太鼓を叩き、おそろいの法被姿で御輿を担ぎ、会場を練り歩きました。祭りの詩の群読も行い、祭りの華やかさ、威勢良さを伝え、フェスティバルを盛り上げてくれました。

三・四年生は、「大好き 五木」と題して、地域の方々から学んだ、椎茸栽培・竹鉄砲作り・鮎釣りなどを劇にして発表しました。特に鮎釣りでは、水中でのアユの縄張り争いの様子や友釣りでの釣り上げるまでの様子が分かるように演出に工夫を凝らしていました。

五・六年生は、高野の棒踊りのルーツについて学んだことや体験したことを劇にして発表しました。一学期に棒踊りをおとした東陽小・中学校との交流や、人吉市で開催された「くまもと子ども芸術祭」への出演も織り交ぜながら発表しました。



平家の落人から伝わったとされている東陽町坂より上の棒踊り、それを大正時代に山師が山を越え、五木村高野に伝えたとのこと。毎年舞っている棒踊りのルーツも分かり、伝統を引き継ぐ意味も一人一人発表することができました。

今年も、小学生の発表の他に保育所・社会福祉協議会・保護者の皆様にも発表していただきました。また、展示の部では、小中学生の作品の他に地域の方々からたくさん出展していただきました。さらに、昼食は、地域婦人会のご協力で、おいしい豚汁をふるまっていただきました。

学校と保護者・地域が一体となった、まさに「五木源ふれあいフェスティバル」。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。



『いかのおすし』で 命を守ろう



午後からは、五木村青少年育成会議主催の「ALSOOKあしん教室」が開かれました。最近、児童生徒が事件に巻き込まれ、尊い命を奪われてしまう痛ましい事件が続いています。子どもたちが登下校、あるいは地域で自らの命を守ることができるように、見知らぬ人から声をかけられた場合の対応の仕方について、「いかのおすし」をキーワードに、警備会社「アルソック」の方を講師とした、参加体験型の学習が行われました。



いか... つかない。の... 乗らない。

お... 大声を出す。す... すぐ逃げる。し... 知らせる。

また、地域での子どもの見守りに役立ててもらうために、保護者・地域の方々に、学習を参観していただきました。

声かけ事案は、いづどこで起こるか分かりません。適切な対応ができるように、今後子どもたちへの防犯学習を積み重ねてまいります。家庭・地域での協力もよりしくお願いします。

ホタル舞うふもく



フェスティバルの最後のプログラムとして、ホタル舞うふるさとの復活をめざして、「交響楽の里」の方々の指導のもと、ホタルの幼虫を放流しました。

平成三年五月に、「くまもとホタルの里百選」に選ばれた五木小川。当時はホタル祭りも行われ、ホタルが乱舞していたそうです。しかし、その後のダム関連工事等の影響のためか、ホタルがめっきり少なくなっていました。再びホタル舞う五木にした

い。そんな願いを込め、五木小川と田口溪流にホタルの幼虫一千五百匹を放流しました。

五木小川・田口溪流には、ホタルの幼虫のえさであるカワニナも生息しています。放流した幼虫が成虫へと成長し、六月の夜は、無数の光で溢れる「ホタルの里 五木」となることを願います。



事前学習会



幼虫の観察



幼虫の放流 (田口溪流)